実験と病理と子育て（と妙高市の紹介）

北海道大学医師会
北海道大学大学院医学研究院
片山（かたやま）　優子（ゆうこ）

この度、寄稿のご案内をいただき、恐縮ながら書かせていただいております。

医師７年目で、一昨年大学院に入学し、博士課程の３年目となりました。未だうまくならない基礎医学実験に苦悩しております。昨年病理専門医を取得しましたが、専攻医に毛が生えた程度どころか、大学院入学までの専門研修で養ったはずの目が、時間の経過とともにあやしくなってきたのを感じています。実験は不得手、病理診断もできなくなってきて、自分の価値を考えるこの頃です。

こんな私ですが、一昨年の冬に長女を出産し母となりました。子どもは３カ月で保育園へ入園、私も大学院へ復帰しましたが、保育園の感染症に次々と親子揃って罹り、体調が安定するまで半年かかりました。幸い両親に助けてもらっており、保育園のお迎えで実験を切り上げることなく続けられています。それでも、帰れば子どもに絵本を読みながら自分の夕食や入浴でバタバタ、抄読会の準備をしないと……と思いながら子どもを寝かせるうちに寝落ち、溺れるような日々です。実家の助けがなかったら実験はできなかったと思います。感謝です。

ちょっと落ち着いたらしたいことは帰省です。といっても、もう帰る家はなく、ただ中学卒業まで住んでいた町を散策し、ビジネスホテルに泊まるというものです。帰る先は新潟県妙高市、お米と地酒が味わえる長野県寄りの町です。豪雪のニュースでテレビに映ることがあります。札幌からはアクセスが不便で、富山空港まで直行便、富山駅から北陸新幹線、そしてえちごトキめき鉄道に乗り換えます。近年はお酒好きや若者向けのイベントを開催して、ファンを獲得しているようです。市の中では栄えたエリアに住んでいましたが、町はずれではあり、家の周りはそこここに畑や田んぼがあって、スキー場や霊園もありました。小さな神社ではむせるくらいの緑に、シャワシャワセミの声だけが聞こえます。ホテルがある場所さえも夜は静かで、隣のローソンが闇に浮かびます。この場所で不思議と、今年も帰ってきたなぁと思うのです。自分のルーツが田舎にあるため地方は好きで、北海道の地方も愛を持って訪れています。病理診断科では、地方に勤める機会は少ないかもしれませんが、ぜひ札幌以外でも働いてみたいと思っています。

次は「アクションズ　若手医師活動報告」に寄稿できるような話題があればと思いながら、自己紹介とさせていただきます。

変わらないために変わり続ける

札幌市医師会
いし胃腸科内科医院
石（いし）　忠明（ただあき）

Mr. Childrenことミスチルのファンクラブに入って20年になります。

学生の頃からよく聴いていました。札幌ドームでミスチルのライブがあることを知り、確実にチケットが欲しくて入会したのがきっかけです。実際行ってみると、身も心もリフレッシュでき、すっかりライブの楽しさに目覚めました。

ミスチルは、ライブ本数が少ない時期がありましたが、ちょうどこの頃から、ほぼ毎年ツアーを開催してくれるようになりました。ドームのほか、北海きたえーる、真駒内セキスイハイムアイスアリーナ、札幌文化芸術劇場hitaruと、札幌にも何度も来てくれています。

ある年は、当時４歳の息子を連れ、札幌ドームの親子席で楽しみました。またある年は、友人とナゴヤドームへ弾丸遠征。コロナ禍の年は、マスク着用、発声禁止という厳戒態勢でした。そして今年、隣には20歳になった息子。親子席にいた小さな息子が、今では肩を並べて一緒にステージを楽しんでいる。その時間をとても感慨深く感じました。

ミスチルは来年35周年だそうです。

桜井さんの歌声は昔からのまま、むしろ年々上手くなっているようにさえ感じます。デニムとアクセサリーが良く似合い、とにかくカッコいい。56歳だなんて信じられません。ライブを行いながら作曲活動も意欲的で、歩みを止めません。

30歳の時にライブを見ていた自分は、今年50歳になりました。

人生の中で、ずいぶん長くミスチルと過ごしてきたなと思います。56歳とは思えない力強い歌声でステージを盛り上げ、今なお新しい音楽を生み出し続ける彼らの姿を見ていると、50歳の自分が「もう歳だから」と言うのはまだ早いと思えてきます。

これからは、50代ならではの苦労や心配が出てくるかもしれません。それでも、どんな50代にするかは自分次第。年齢を一旦脇に置き、『高い壁の方』を選んで登っていきたいと、気持ちを新たにしています。

ミスチルが変わり続けているからこそ、20年経っても変わらずに好きでいられます。

これからも変わらず好きでいるために、自分も変わり続けていきたいと思います。